

祝

直方市制 90 年

「直方」の地名のはじまり

1623年、新入村の枝村である東蓮寺村（現在の殿町 双林院あたり）に初代黒田高政公の館が築かれ、東蓮寺藩 4 万石が開かれました。長政公の遺言では高取城を住居にとありましたが、嘉麻川と彦山川が合流し、筑豊平野の要にある東蓮寺村に決まりました。東蓮寺は宮田の倉吉村の内山寺の末寺で塔頭が 8 院もある真言宗の寺院でしたが、当時は廃寺となっていました。現在の新町公園あたりになります。

東蓮寺藩が直方藩と改められたのは、三代藩主黒田長寛公の時、延宝 3 年（1659）です。「筑前国続風土記」によると、藩主の若死や嗣子ができないのは「名宜しからざる故」と考えられたためです。

「直方」の由来は、現在の中泉あたりにあった能方村から、南北朝時代の「王方」から、と諸説ありますが、当時東蓮寺藩に居た貝原益軒の兄、貝原元端が中国の易経から取ったというのが有力です。

「易経の坤の六十二に曰 直（す）ぐ方（かた）にして大なり 習わずして利さざることなし」から直と方の字を取り、読みは中泉にあった能方村（なほかたむら）から取ったのではないかとされています。なお現在「のおがた」と呼ばれていますが、戦前までは、駅のアナウンスでも「なほかた」と呼ばれていたそうです。

直方歴史ものがたり N219 /

「郷土直方」第 6 号 NL219 /



筑豊の民話 -力魔と鬼弥-

慶長 17 年、黒田長政公の時に水害に苦しむ領民のため、遠賀川の改修を行うことにしました。そこで新しく川筋を掘ることになりましたが、1 町 4 反もの田畠が潰されるため、川筋に当たる感田・頓野村と向かい側の知古・新入村では反対の声が強く、どこに川筋を掘ったらいいか決まりませんでした。藩の役人は困り果て、相撲の勝負をして負けた方に川筋を掘ることにしました。感田・頓野村は感田の力魔という有名な力士を出すことにしました。力魔は「一斗餅を食べ、1 日に 1 町七畝を耕し、臼で藁打ちをする」という言い伝えが残っているほどの有名な力士です。知古・新入村が出した弥作は力も力魔に及ばず、小柄であったので力魔にはかなうまいと噂されていました。しかし村の利害と名誉がかかっているため一生懸命になり、新入村の法華寺の観音様に立願し丑のとき詣りをして勝利を祈願しました。取り組みの当日、土俵際に追い詰められた時、観音様のお加護でふしぎな力がわきだし、ついに力魔を投げ飛ばしました。弥作はこの後、鬼弥と呼ばれるようになりました。そこで相撲の勝負に負けた感田村に川筋を掘り、その時感田村の新出地区が川西に移り、感田村から川を渡って田畠の耕作に出かけなければならなかったそうです。

ちなみに下新入の法華寺の十一面観音は建武元年（1334 年）に作られ、現在県指定の文化財となっています。

「市報のおがた昭和 47 年 5 月号 直方むかしばなし」 N318 /



放送作家 伊馬春部

本名は高崎英雄。明治41年鞍手郡木屋瀬に生まれました。12歳で母を失い、翌年旧制鞍手中学校入学と同時に父を失い、その後は母の兄にあたる植木町の阿部王樹のもとで育てられました。王樹は青木月斗系の俳人で、この家の文学的雰囲気の中に作家伊馬春部を生み出す遠因となりました。

大正15年、英雄は国学院大学に進み、歌人折口信夫教授と出会います。折口は国文学の研究者、民俗学の開拓者として知られ、その後の英雄に大きな影響を与えました。国学院を卒業後、作家井伏鱒二に師事、井伏の家で太宰治と知り合い、二人の交友は太宰の入水まで続きました。

昭和10年にラジオドラマの分野に進出、日本放送協会の文芸部嘱託となり、昭和15年に書いたNHKテレビ実験用のドラマ「夕餉前」は、日本のテレビドラマの嚆矢となります。戦後、昭和21年には、NHK連続ラジオドラマ「向こう三軒両隣」の脚本を書きました。この番組は5年10カ月に渡って放送されるという人気番組に成長、敗戦後の失意のどん底にあった人々に笑いと生きる力を与え、伊馬春部の名を高めました。その後NHK放送文化賞、文部省芸術祭奨励賞を受けるなど、伊馬は放送劇の分野で第一人者と目されるようになり、日本演劇協会理事、日本放送作家協会理事長などの要職も歴任、昭和48年には紫綬褒章を受けました。放送・上演された作品は約50篇、出版された著作も10数冊に上ります。

また、伊馬が手がけた校歌の総数は実に23、これは優に1冊の歌集を編むことができる量です。植木小、新入小、筑豊高、鞍手高などの校歌も伊馬の手によるもので、今後も多くの生徒たちによって長く唱い継がれていくことでしょう。

12/4(土)開催予定の「ふるさと再発見！講座」では、伊馬春部についての講演を行います。詳しくは館内配布のチラシにてご覧ください♪

「直方人物誌」N281 / 「直方碑物語」N219 /



はじめの一步 ～郷土資料の紹介～

直方市立図書館にある郷土関係の本を紹介していきます。
郷土の歴史や文化に興味をもっといただくときっかけになればと思っています。

『遠賀川ふるさと散歩Ⅱ 一鞍手・直方・小竹・宮若編一』

大崎好一//文 西川幸夫//画 N291 手

今年は10月に入っても暑い日が続きましたが、やっと過ごしやすい気温になってきましたね。
そこで今回ご紹介するのは、遠賀川周辺の淡彩スケッチ画文集です。

遠賀川流域の鞍手・直方・小竹・宮若の歴史と文化について、優しいタッチの淡彩画と丁寧な取材を基にした文章で描かれています。日の出橋から見た遠賀川河川事務所の風景、殿町レトロ通り、歳時館や石炭記念館、古町商店街の裏路地など、描かれている風景は直方に住んでいる人になじみのあるものが多く、「この立ち位置でここから切り取った風景だな」ということまで分かっちゃう楽しい画集です。

この本を手を、思わず出かけたくなるような一冊になっています。



直方市立図書館 直方市山部 301-11 コミュニティのおがた内
TEL 0949-25-2240 FAX 0949-23-3902